

細菌検査

一般細菌塗抹

喀痰や尿などを専用のガラスの上に塗抹し、顕微鏡で細菌を確認する検査です。細菌はグラム染色という染色法によって、大まかに鑑別することができます。病原菌を特定することで、使用する薬を決める手がかりになります。

抗酸菌塗抹

専用のガラスの上に材料(主に喀痰)を塗抹して特殊な染色法で結核菌に感染していないか顕微鏡で調べる検査です。結核菌は空気感染するので、結核の疑いがある患者さんはすぐに結核かどうかを調べる必要があります。結核菌はグラム染色で染まりにくく検出が困難なため、抗酸菌染色をすることで確かめることができます。

CD トキシン抗原・毒素

CD トキシンとはディフィシル菌が産生する毒素で、下痢症や偽膜性大腸炎を引き起こします。ディフィシル菌は普通の人々の腸にも少数存在しますが、抗菌薬の投与で腸内の細菌バランスが変わってくるとディフィシル菌が増殖し、CD トキシンを産生します。抗菌薬を使っている方が下痢を起こしたときは、便の中の CD トキシンを検査してディフィシル菌が原因かどうかを調べます。

血液培養

敗血症や菌血症(血液の中に菌が入り込んだ病気)が疑われる患者さんの血液を採取して培養し、血液中に菌がいるかどうかを確かめます。病原菌の有無の確認や重症度の指標となります。

